

学習活動「えんぴつ作文」

この教材は、大阪市内で活動している識字学級、日之出よみかき教室(木曜日)で活用しはじめたものです。

●活動ながれ●

テーマに沿って、それぞれの思いや考えを書き綴り、最後にみんなで輪になって発表(輪読)する取り組みです。

A5サイズの紙にえんぴつを書きます(A4用紙に2つのえんぴつを書き、半分に切ります:最終ページ参照)。そのえんぴつの絵に、5行程度の作文が書けるように線を引きます。それを一人ひとりに配りテーマに沿って作文を書きます。時間は、だいたい20分程度の取り組みです。

テーマは毎週いろいろです。その日に教室で学習者がつぶやいたことばから選んだり、生活や生い立ちを振り返るきっかけになるものにしたたり、季節に合わせてたりと、その日その日で変わります。教室に初めて来た人には、自己紹介を書いてもらったりしています。日本語で書くことが難しい人には母語で書いてもらい、他の学習者に訳してもらいます。

<テーマ例>

*冬の寒い時は「寒なったなあ」 *暑い夏の日には「夏に食べたいもの」

*年末年始の休み明けは「久しぶりの教室」 *教室に初めて来た人が多い時は「自己紹介」

*学習者が呟いた言葉をもとにした時は「思い出の食べ物」、「まつりの思い出」、「逃げる」、「痛いこと」などです。

※時々、「折句」も交えます。

●教材のポイント●

この教材のポイントは3つあります。

(1)小さな紙で作っているところ

書くスペースが小さいので構えずに作文を書きやすくなっています。文字の読み書きや文章で思いを表現することにまだ慣れていない人にとっては、作文を書くということは気持ちの面で負担があります。逆に文字の読み書きに慣れている人にとっては、小さいスペースの中に、思いをまとめて書くという学習になっています。

(2)仲間づくりにつながっているところ

教室活動時間の半分は、個別の課題に応じて学習をすすめています。でも、それだけでは他の人となかなかつながる機会がありません。そのため共同学習として「えんぴつ作文」を行い、それぞれのことを知り合う時間にしています。えんぴつ作文を書いた後、輪になって発表(輪読)します。書いて終わりではなく、日々の暮らしの中で、嬉しかったこと、つらかったことを作文に

して発表し、それぞれの思いを分かち合います。それが教室の参加者の仲間づくりにつながります。

(3)生活に関心を持ち、綴れるようになるところ

書いて表現することが「習慣」になると、日常生活に「関心」を持つようになります。はじめは「何を書いていいかわからない」、「変化のない暮らしだから書くことがない」と言っていた学習者も、次第に日々の何気ないできごとなどに関心を持つようになり、自分自身の気持ちに向き合い、表現できるようになります。

●教材ができたきっかけ●

かつて 80 代の学習者が「家でちょっと書きたいなあと思ってんだけど、3 つ書いたら次がわからなくなったから全部書くのをやめたんや。かけたらよかったのに」と教室で話をしてくれました。また、おしゃべりは得意でも文章を書くとなるとちょっとしんどいという学習者もいました。そこで、「思ったことや感じたことを短くても書けるようにしましょう」、そんな思いでスタートしました。

書くスペースをえんぴつ型にしているのは、識字学級でえんぴつをいつも使っているからというだけではありません。大阪府内の識字学級や夜間中学では、年に 1 度「よみかきこうりゅうかい」という 500 人規模の集会を開催しています。そこに集う際、学習者・学習パートナーは、それぞれの思いを「えんぴつポスター」と呼ばれる A4 サイズぐらいの紙に書き綴り展示します。「えんぴつポスター」は「えんぴつ作文」より大きいサイズになります。「えんぴつ作文」は、その縮小版です。

●教室の紹介●

日之出よみかき教室は、1970 年に生まれました。被差別部落に暮らす女性たちの「せめて子どもに絵本を読んで聞かせてやりたい」「役所に届ける書類を自分で書きたい」「住所や名前ぐらい自分で書きたい」「子どもが学校から持って帰ってくるプリントを読んでやりたい」といった切実な願いからはじまった教室です。現在この教室には、日之出地区に限らず様々な人が参加しています。障害者、不登校経験のある人、仕事や結婚で渡日した人、家族を頼って朝鮮半島や中国から来た人、仕事やワーキングホリデーでフィリピンや朝鮮半島から来た人などです。年齢層も 10 ～70 代と幅広い人が集っています。学習パートナー(支援者)は、経験も年齢も幅広くバラバラです。そんな参加者が週 1 回、夜の 7 時から 9 時までの 2 時間、集まって学習をしています。

●2 時間の教室活動のながれ●

学習者それぞれの課題に応じた学習を 1 時間ぐらいすすめます。たとえば、生活に必要な漢字の学習、日々のことを綴り記録する学習、地図の見方や日本語でのおしゃべりなどです。その後、教室で作ったご飯と味噌汁をみんなで食べながら日々のことをおしゃべりします。ときには、運営会議を開き、教室のすすめ方や地域イベントへの参加について教室みんなで話し合います。活動時間残り 20 分ぐらいで、「えんぴつ作文」を書き、発表(輪読)してその日の識字活動を終わります。

